

ほっくー基金生物多様性保全助成制度(ほっくー・トム両コース共通)活動報告書

「ほっくーコース」の助成団体は、本報告書と精算報告書(別記様式第5号)を提出してください。

団体名	深川ひきがえるバスターズ
活動名称	地域の外来生物アズマヒキガエル・アライグマ駆除事業
活動期間	2020年 3月 ~ 2020年 12月
活動内容	<p>本助成により行った活動と成果を項目ごとに記入してください。写真を別途数点添付してください(本文には挿入せず、画像ファイルとしてご提出ください)。</p> <p>本年度は、創立3年目の活動として、4月の総会で承認された事業計画どおり、下記の活動を実施。</p> <p>1. ヒキガエルの捕獲(事業報告書 P.2、添付写真3枚)</p> <p>深川市音江町を中心とする16カ所の池やその周辺で取組み、繁殖期のヒキガエル成体を夜間の巡回捕獲で6,297匹、カゴ罠で815匹、合計7,112匹を捕獲(重量約450kg)。そのうち、池の周囲にフェンスを設けるなどして重点的に取り組んだ10カ所14個の池では、卵や幼生(オタマジャクシ)の除去も行って、うち9カ所の池で繁殖(次世代の発生)をほぼゼロに抑えることに成功。</p> <p>2. 古い溜め池の取り壊し(事業報告書 P.6、添付写真1枚)</p> <p>駆除を行っている池の近くにある放棄された古い溜め池3カ所5個に対して、油圧シャベルで堤を取り壊して水を出す工事をし、今後ヒキガエルの繁殖場所にならないようにした。</p> <p>3. アライグマの捕獲と聞き取り調査(事業報告書 P.7、添付写真1枚)</p> <p>会員13人が防除従事者登録をし、アライグマを計107頭(1~10月)捕獲。また、音江地区全体を聞き取り調査し、地区内の捕獲状況や推定生息総頭数、および生息数を減少に向かわせるための捕獲目標などを明らかにした。本会から分離発展させる形でアライグマ捕獲市民の会(仮称)を発足させる準備も実施中。</p> <p>4. 情報発信・普及啓発活動(事業報告 P.10)</p> <p>昨年までの公開講演会に代えて、7月の深川市広報と一緒に本会々報特別版を配布(音江地区は全戸、他地区は各町内会1冊ずつ)。通常の本会通信は1~5号を発行。</p> <p>5. その他の活動(事業報告 P.10)</p> <p>(1) ホームページの運営(補助対象外)</p> <p>本会のホームページ(http://fuka-kaeru.com/)の維持管理・更新を行った。</p> <p>(2) コロナ対策10カ条</p> <p>ヒキガエルの夜間巡回捕獲は、“コロナ対策10カ条”を作って“三密”対策を万全にした。</p> <p>(3) 池の周囲の除草・枝払い</p> <p>ヒキガエル駆除作業がスムーズに行えるよう、秋期に池の周囲の除草や枝払い等を実施。</p>

(4) 捕獲用具の頒布

ヒキガエルを捕らえるカゴ罟、タモ網を会員に頒布した。

(5) 駆除用具の工夫改善

新しいフェンスの材料、カゴ罟の中敷き、および池の入水口を塞ぐ金網を実験または材料確保。

(6) マスコミや催事による情報発信

コロナ報道に押され、新聞報道は地方版に3回のみ。諸行事自粛のため催事の講師はなかった。

活動成果に対する団体の評価

申請内容に照らして、目標達成度合いはどうだったのか、手法は的確だったのかなどを活動団体の視点で記入してく

1. 単年度評価

年度当初の事業計画と予算計画に従って、①人海戦術による大繁殖池のヒキガエル徹底捕獲、②管理できない古い池の取り壊し、③アライグマの捕獲と地区全域調査、の3本柱を中心に取り組み、計画変更等もなく、計画の達成度は100%といえる。

また、①ヒキガエル捕獲技術の工夫改善、②軽トラック（レンタル）による能率的な行動、③ホームページと市の広報を活用した情報発信など、活動手法においても完成度が高くなっている。

2. 最終目標に照らした評価

(1) ヒキガエル

会の最終到達目標は、ヒキガエルの“地域からの排除”であるが、会の設立以来3年間、毎年の総捕獲数は7,000匹台で推移しており、明確な減少にはなっていない。しかし、ヒキガエルは成体になるまで雄は約3年、雌は約4年かかるので、毎年成体を全部捕獲しても、最初の3年間は捕獲数があまり減らず、4年目頃から明瞭な減少が始まるはずである。かつて本会が多発生終息宣言をしたグリーンパーク21でも、そのような経過をしてきた。

さらに本会では、駆除対象の池の周辺で、古い池の取り壊しや未対策の池を駆除対象に加えるなどに取り組んでおり、これらの効果は、今後数年かけて現れるはずである。

一方、全道的な視野で見ると、ヒキガエルの根絶に成功した例はなく、逆に、既生息地の周辺や札幌市などに新たな生息地が次々と見つかって続き、根絶しても速やかに周辺から再侵入する状況に変わってきた。従って、本会も“with ヒキガエル”の考え方で、根絶より“多発生終息”宣言することが新しい目標になりつつあり、それは数年内に達成できそうである。

(2) アライグマ

全道的に急増して状況が悪化中の特定外来種アライグマに対しては、“地域をあげた組織的・科学的な取り組みによって毎年生息数の半数以上を捕獲する”しか地域からアライグマを排除する方法はないと言われながら、そのような取り組みで完全排除に成功した事例は、道内にはない。

本会の活動により、地区内の捕獲密度分布や推定生息総頭数、生息数を減少に向かわせるのに必要な捕獲頭数などが明らかになってきた。同時に、限られた農業者の個人的・自発的な捕獲に頼る現状を打ち破り、農業者以外の市民の参加を促し、地域の連携の輪に入れることが駆除成功のカギであることが見えてきた。本会をベースにしてアライグマ捕獲市民の会を作ることは自然な発展方向であり、農業者とそれ以外の住民が混住する深川市においては、駆除を成功させる可能性が高い方法であると考えられる。

